



①

創作童話 『風の子 フーのなみだ』

お日様の子 サータ、
雨の子 チャプと 風の子 フーは、
仲良し3人組です。

でも、3人とも
なおちゃんがいないと つまらないのです。
だから、4人組ってとこかな。

〔抜きながら〕

ある朝、3人は、なおちゃんが
ワーワーないているのを 見つけました。



②

サータ 「どうしたの?」

チャブ 「おれたちには話してよ」

フー 「助けてあげられるかもしれないよ?」

口々にサータ、チャブ、フーが 声をかけました。

なおちゃんは ヒックヒックとなきながら
言いました。

なおちゃん 「昨日の夜、すごい風がふいたでしょ。」

わたしの 犬のケンと にわとりのカコと
こぶたのプルルが、風にとばされて、
どこかに行っちゃった。 エーン、エーン」

もっと大きな声で なきだしたなおちゃんは、
そのまま おうちに帰ってしまいました。



3

サータとチャプは クルリと向きを変え、
フーをにらみつけて 言いました。

サータ「昨日の風は、
すごいとっぷうだった。

あれは フーのしわざだろ。」

チャプ「なおちゃんにあやまれ」

二人に言われ、 フーは困ってしまいました。

あれは、

大人たちがやった 風のダンスパーティーです。

風の大人たちだって、

楽しみにしている日だったのですから。

それに、フーだって 風のなかまです。

悪口を言いたくありません。

サータは 言いました。

サータ「おれなんか、日の光で みんなを助けているのに。
こんな悪さをするフーとは ぜっこうだ！」

チャプも 言いました。

チャプ「おれだって、雨を降らせて、

山の木や畑の野菜を喜ばせている。

悪いことをしてあやまらないフーとは、

もう遊ばない！」

サータとチャプは プンポンに怒って

行ってしまいました。



④

フーは空に向かって、さけびました。

「風のなかま〜。

かってにビュンビュンふかせるな〜。

なおちゃんの ケンとカコとプルルを

早く見つけてくれよ〜 たのむよ〜」

そうさげんでいるうちに、

グルグルと 風がふき始めました。

そして、風はまんまるのうずになって、

フーのそばに寄ってきました。



5

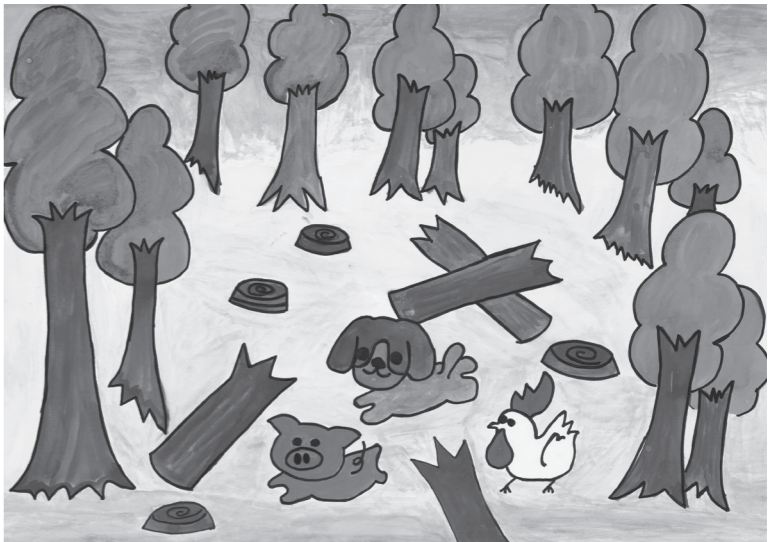
フーはひょいと風のうずじりにのりました。

高い空から フーが下をながめると、
昨日の突風でなぎたおされた 木や小屋、
畑の野菜が 見えました。

フー「ケンとカコく、プルルく。

どこにいるんだく！」

フーのさけぶ声が、
あたり一面に ひびき渡りました。



6

大声は焔を超えて、森まで届きました。
森の入り口に、
たくさんのもものが 折り重なっています。
昨日の風で飛ばされたものです。

急いで近づき、よく見ると、
飛ばされてきた木などの上に、
動いているものが見えます。
しっぽを振るもの、
首を上げたり下げたりするもの、
クルクルと 小さな自分のしっぽを追いかけて、
喜んでいるものも 見えました。

ケンとカコとプルルです。
生きていたのです。

フーは 呼びかけました。

「早く、このうずの中に入って！」

なおちゃんが待っているよ。」



⑦

ケンとカコとプルルを連れて、
フーは、なおちゃんのおうちに向かって
飛んで行きました。

すると、途中でサータとチャプが、
そのうずの中の みんなを見つけました。



「おーい、フー。」

ケンとカコとプルルを

見つけたからって、ゆるさないぞ。

たくさんのものをこわして、

みんなを苦しめたんだからな。」

とサータが言つと、



「フーたちは、木を倒したり

家を壊したりすることしかできないのかー」

と、チャプも負けずに文句を言いました。



8

うずの上で この言葉を聞いたフーは、
悲しくなって 下を向きました。
そして、 ボロボロと大つぶのなみだをこぼし、
ついに上を向いて 大声で泣きました。

 フー「なおちゃん、ごめんよ〜。」

どうしたらいいんだか、わからないよ〜」

フーの声は、突風のように 空をかけめぐりました。
すると、犬のケン は フーの肩に足をかけ、
頬ほほを流れるなみだを ペロツとなめました。
ニワトリのカコは、フーの周りをトコトコ歩き回り、
フーに優しく コココと声をかけました。
こぶたのプルルは かわいい両足をフーの足にのせ、
ギョギョギョとなきました。



9

優しく頬をなでる風が ふいてきました。
風は、白い雲をゆっくりと動かしました。
下に見える木々も 気持ちよさそうに
ザワザワツと体をゆすり、
モンシロチョウやヤマトシジミが、
ゆるゆる花々を飛び回っています。
なおちゃんのおうちの、
庭のせんたくものが やさしい風によって、
ブランコをしているように見えました。
タンポポの綿毛が フワーツと
いっせいに空に広がっていきます。
フーと3匹は、優しい風によって
なおちゃんの家にもどってきました。



10

ケン・カコ・プルルが
なおちゃんの周りを かけまわります。
なおちゃんの頬ほほが ピンク色に輝ほいています。

フーは なおちゃんのそばに行き、
小さな声で言いました。

フー 「なおちゃん、ごめんね」

なおちゃん 「フーちゃん、もういいの。」

3匹を助けてくれて、 ありがとう。
みんな仲直りしましょ」

ケン・カコ・プルルは、

2人の周りをうれしそうに走っています。



11

すると、そこに お日様の子サータと
雨の子チャプがやってきました。



「おれは、今日いい天気にしたよ。

おれは、フーとは違うだろ。」

すると、なおちゃんが、



「サータ、あなたの力は すごいわ。

でも見て。

タンポポの綿毛が どんどん 空を飛んでいく。
きっと、

いろんなところで タンポポが咲くでしょう。

それに、 すすしい風で とっても気持ちがいい。
しあわせ」

雨の子チャプは、

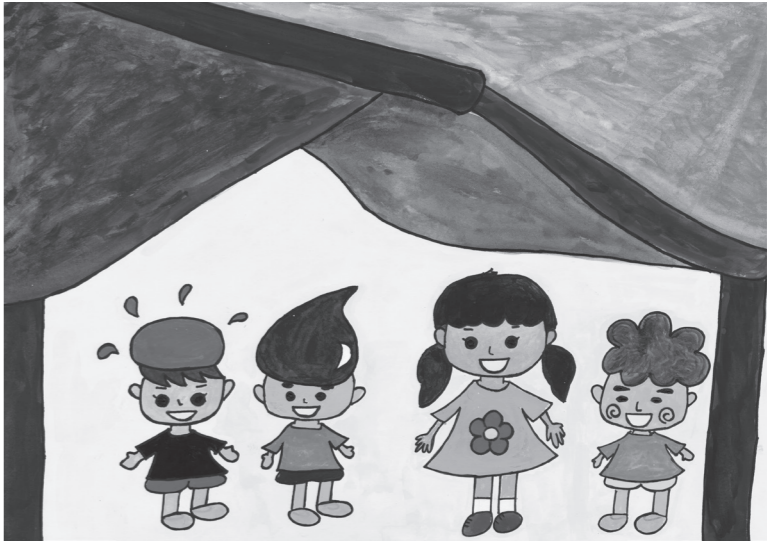


「いい天気すぎて、

庭の植物が 水を欲しがっているよ」

と言うと、 突然雨を降らせました。

みんなあわてて、 軒の下に逃げ込みました。



12

雨のおかげで、

4人は家の軒先になかよく並びました。

フー「この間はごめん」

と、フーが言つと、

サータ「ちよつと言い過ぎちゃった。」

と、サータが言いました。

チャプ「仲直りしよう」

とチャプも言いました。

フーは 心から感心したように言いました。

フー「みんなは、すごいんだね」

すると、なおちゃんは

なおちゃん「フーも、いろんな風で、

しあわせをくれているじゃない」

サータとチャプもうなづきました。



13



なおちゃん

「じゃあ、

今日は仲直りに、これで遊びましょ」

なおちゃんは、手に持っていたかざぐるまを、

1本ずつ、3人に渡すと、

雨がやんだ空の下を、風に向かって走り出しました。

みんなも負けずに、

かざぐるまを 風に向けてかけ出しました。

気持ち良い風が、

かざぐるまを勢い良く回しています。

仲良し4人組のかざぐるまは、

そのまま風に乗って、

空にのぼっていくように見えました。

めでたしめでたし